

2018年4月2日付 鋼構造ジャーナル

「鋼構造実験見学会」を開催

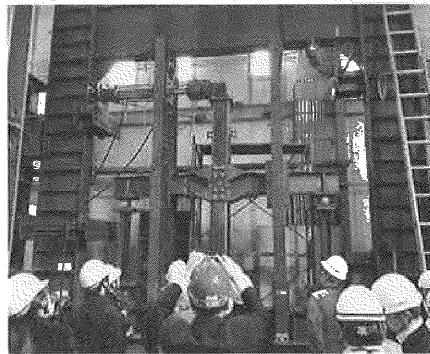
研究者やファブら50名が参加

建築学会・中国支部

日本建築学会・中国支部 見学した。
の鋼構造研究小委員会（主 実験は、角形鋼管柱とH
査 田川浩・広島大学 梁を側面鋼板で補強したス
院工学研究科教授）は3月 プリットティを用いてハッ
16日、広島県東広島市の広 ク高力ワンサイドボルトに
島大学建築構造実験室で第 より接合し、繰り返し載荷
15回鋼構造実験見学会を開 することに於ける挙動を観察
催。「高力ワンサイドボル するもの。田川教授は20
トを用いた柱梁接合部の大 17年の研究でスプリット
振幅載荷実験」を行い、同 ティ工法の面外剛性が低い
学会会員や地元の方ファブリ 特性を補うためにカバープ
ケーター、学生ら約50名が レットを用いるなどの工夫

を検討するとともに実験を
行っており、それらの再現
を兼ねて今回、開催された
もの。

までの実験および結果を説
明し、ハック高力ワンサイ
ドボルトに関する概要説明
と締め付け実演をロブテッ
クスファスニングシステム



繰り返し載荷による挙動を観察

の中島一浩氏が担
当し、続いて実験
室で載荷実験を行
った。

なお、見学会は
日本建築構造技術
者協会と広島県鉄
構工業会（理事長
山本泰徳・ステ
ントス社長）の共
催で開催された。